

小樽の鉄道の移り変わり

【小樽市総合博物館作成・提供】

- ・本資料は、小樽市総合博物館が作成し、同館においてプロジェクションマッピングで公開しているものを加工しています。
- ・同館へご来場の際は、是非ご覧ください。

OTARU

＜小樽のあゆみ＞

明治2年 開拓使を置き「蝦夷」を改め「北海道」と称し、
「オタルナイ（村並）」を「小樽」に改める。

小樽市の人口（明治10年） 6,433人

勝納川周辺（信香町、勝納町、
新富町等）に街区が形成

於古発川河口

色内川河口

勝納川河口

鉄道敷設前の小樽

1875年
明治8年

「小樽市総合博物館所蔵」

＜小樽のあゆみ＞

明治13年 手宮（小樽）～札幌間鉄道開通

明治26年 日本銀行派出所開所

明治29年 小樽商業会議所開所

（現・小樽商工会議所）

小樽市の人口（明治20年）15,461人

住吉神社

住吉神社下の駅周辺に
街区が形成

南小樽駅（現在）

水天宮

於古発川河口

色内川河口

手宮の駅周辺に
街区が形成

勝納川河口

鉄道敷設後の小樽

1891年
明治24年

幌内鉄道

「小樽市総合博物館所蔵」

浅草寺

小樽市の人口（明治32年）61,893人

浅草寺下の富岡、稲穂、
花園周辺に街区が形成

石山町、豊川町周辺に
街区が形成

浄心寺

南小樽駅（現在）

於古発川河口

色内川河口

勝納川河口

小樽中央（現：小樽）駅 開業前

1902年
明治35年

北海道鉄道
（予定線）
幌内鉄道

「市立小樽図書館所蔵」

＜小樽のあゆみ＞

明治38年 函館本線全通
明治41年 北防波堤完成
明治44年 小樽高等商業学校開校
(現・小樽商科大学)

小樽市の人口（明治40年）90,373人

小樽駅（現在）

南小樽駅（現在）

手宮～岩見沢複線化完了
手宮高架栈橋の完成

1911年
明治44年

函館本線
手宮線

＜小樽のあゆみ＞

大正11年 市制施行

大正12年 小樽運河（第1期）完成

小樽市の人口（大正14年・国調） 134,469人

小樽駅

南小樽駅

1923(大正12)年 小樽運河完成

1926年
大正15年

函館本線

手宮線

「小樽市総合博物館所蔵」

小樽市の人口（昭和5年・国調）144,887人

小樽駅

南小樽駅

小樽築港石炭ヤード埋立

1928年
昭和3年

函館本線
手宮線

「小樽市総合博物館所蔵」

<小樽のあゆみ>

昭和15年 高島町、朝里村を合併
第1ふ頭完成

小樽市の人口（昭和10年・国調） 153,587人

小樽駅

南小樽駅

1932(昭和7)年 小樽臨港線開業

1937年
昭和12年

函館本線

手宮線

臨港線

「小樽市総合博物館所蔵」

＜小樽のあゆみ＞
昭和29年 朝里川温泉郷を開発

小樽市の人口（昭和25年・国調） 178,330人

花園グリーンロード

小樽駅

南小樽駅

1943(昭和18)年 手宮線営業休止」
1948(昭和23)年 手宮線旅客営業復活」

1949年
昭和24年

函館本線
手宮線 臨港線

「小樽市総合博物館所蔵」

<小樽のあゆみ>

昭和33年 塩谷村を合併
昭和37年 市役所庁舎（別館）完成
昭和38年 市民会館完成
昭和39年 小樽駅～南小樽駅間の高架化

小樽市の人口（昭和35年・国調）198,551人

小樽駅

南小樽駅

1962(昭和37)年 手宮線旅客営業廃止

1963年
昭和38年

函館本線 緑
手宮線 赤
臨港線 青

「小樽市総合博物館所蔵」

<小樽のあゆみ>

昭和60年 長橋バイパス建設工事着工

昭和61年 小樽運河散策路完成

小樽市の人口（昭和60年・国調）172,486人

小樽駅

南小樽駅

1984(昭和59)年 小樽臨港鉄道廃止
手宮線廃止

1985年
昭和60年

函館本線

「国土地理院2万5千分1地形図(1984年)を編集して利用しました」

小樽市の人口（平成27年・国調） 121,924人

小樽駅

南小樽駅

小樽市
総合博物館

旧国鉄手宮線散策路完成

2016年
平成28年

函館本線
旧手宮線
散策路

国土地理院の電子国土基本図(2008年オルソ画像)を編集して利用しました。



旧国鉄手宮

20

平成28年

函館本線
旧手宮線
散策路

国土地理院の電子国土基本図(2008年オルソ画像)を編集して利用しました。